

2020年度（2021年3月期） 上期決算説明会資料

2020年11月10日

H.U.グループホールディングス株式会社

※ 本資料では、記載している部分及びEBITDAの数値を除いて、日本基準(J-GAAP)に基づく数値にて開示しております。

※ 「親会社株主に帰属する当期純利益」を「当期純利益」と省略する場合があります。

※ 数値は原則として表示数値の単位未満で四捨五入しております。

※ 各事業名等については以下のとおり省略する場合があります。

CLT	: 受託臨床検査事業	IVD	: 臨床検査薬事業
SR	: 滅菌関連事業	ENB	: 新規育成事業及びその他
HUHD	: H.U.グループホールディングス		

※ 2019年度第1四半期より報告セグメントを変更しております。本資料は過去実績も遡及し、変更後の報告セグメントの報告区分に基づき作成しております。

※ 本資料で用いている為替レートは以下の通りです。

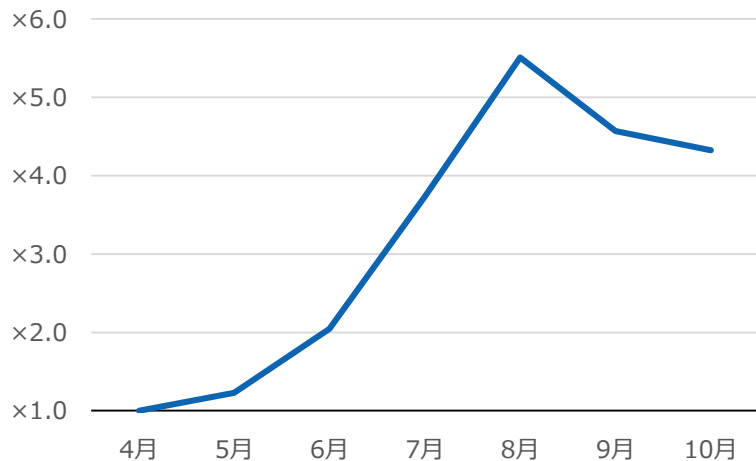
2019年度上期	: 1USD = 108.62 JPY	1EURO = 121.40 JPY
2020年度上期	: 1USD = 106.92 JPY	1EURO = 121.29 JPY

新型コロナウイルス関連のアップデート

PCR・特殊検査受託状況のトレンド

PCR検査受託状況 (新型コロナウイルス関連)

4月の受託総数を1とした場合の増加率^{※1}

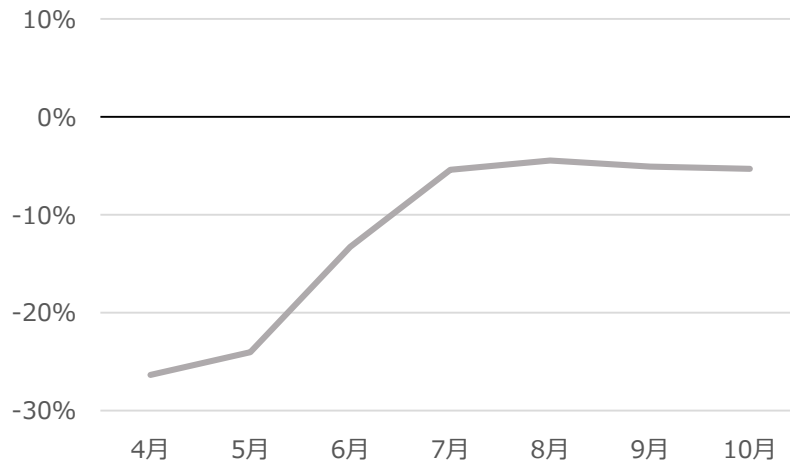


- 直近では2,000~3,000件/日で推移
- 需要動向の予測は困難

※1 SRL、日本臨床の全国での受託

特殊検査の受託状況 (新型コロナウイルス関連検査を除く)

特殊検査ID数^{※2}の対前年同期比



- 6月以降回復傾向にあるものの依然、前年を下回る水準で推移

※2 八王子ラボ受付分、稼働日調整後

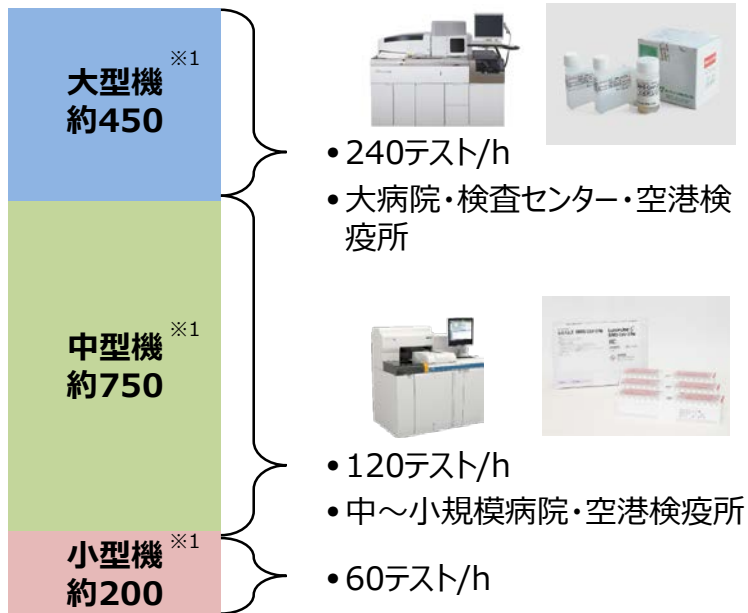
新型コロナウイルス関連のアップデート①

	~FY2020 1Q	FY2020 2Q~
CLT	<ul style="list-style-type: none">PCR検査の受託開始 (行政検査、臨床検査)抗体検査の受託開始	<ul style="list-style-type: none">空港検疫所における 包括的な検査サポートの開始
IVD	<ul style="list-style-type: none">迅速抗原検査キットの上市迅速抗原検査キットの 生産拠点の新設発表中・小型機用 高感度抗原検査試薬の上市 (G1200、G600II)	国内 <ul style="list-style-type: none">迅速抗原検査キットにおける インフルエンザとの検体処理液共通化空港検疫所への製品提供抗原検査における検体種別追加承認 (鼻腔拭い液)大型機 高感度抗原検査試薬の上市 (L2400)
		海外 <ul style="list-style-type: none">欧州での販売を開始 (迅速、高感度) ✓ イタリアを中心に需要が顕在化米国における臨床試験の開始 (高感度)

新型コロナウイルス関連のアップデート②

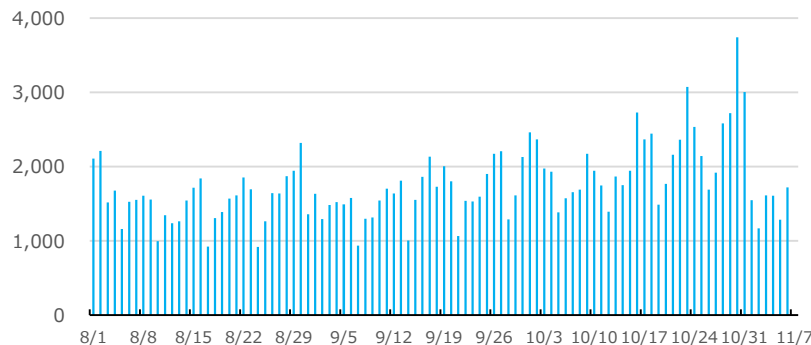
高感度抗原検査（ルミパルス）

国内市場設置済み台数：約1,400台
(新型コロナウイルスによる新規設置約120台を含む)



空港検疫所（入国）における検査状況

空港検疫所における検査実施数※2



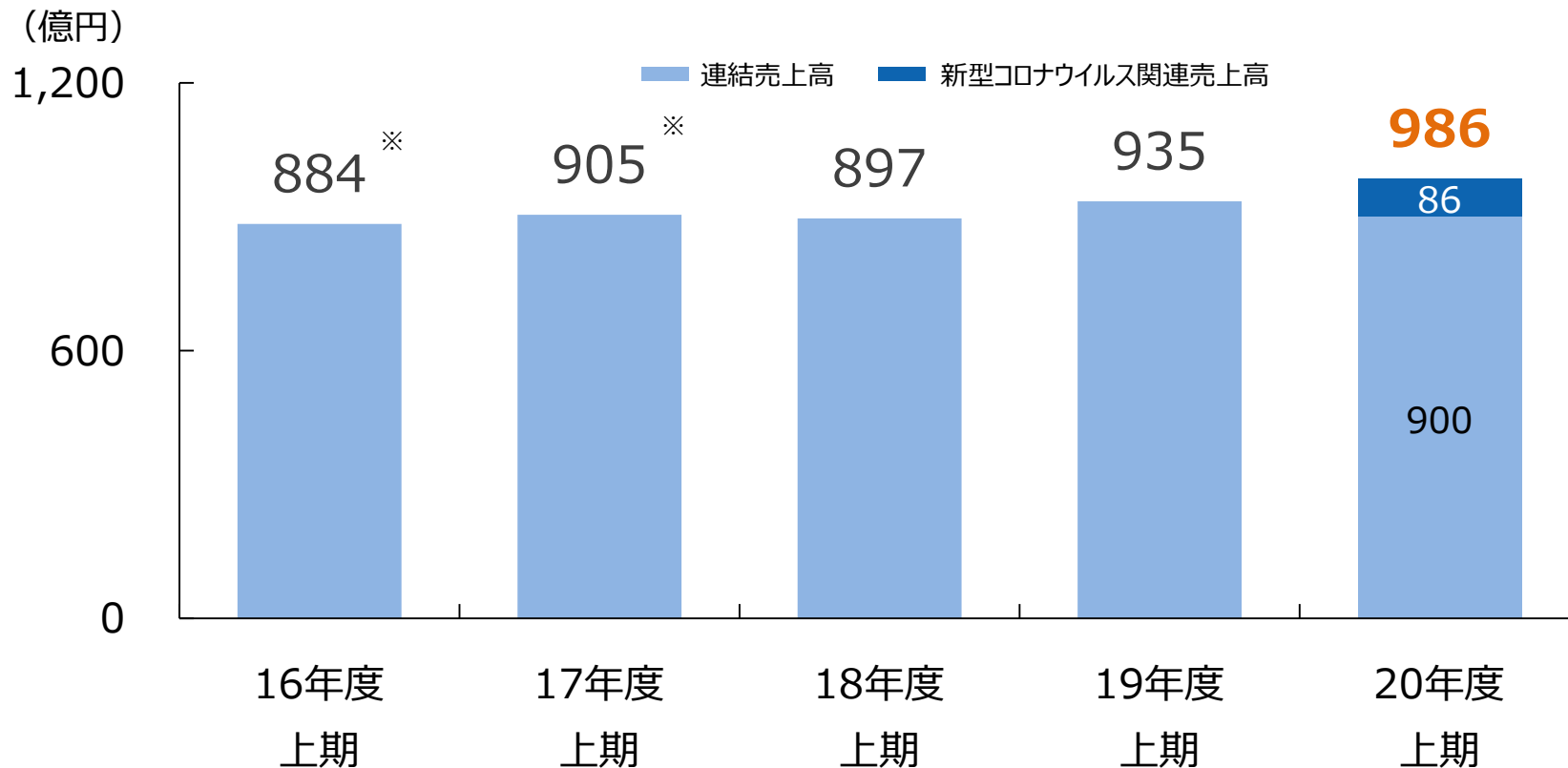
- 7空港へ計40台のルミパルスを設置済み
(成田・羽田・関西・新千歳・中部・福岡・那覇)
- 11/1以降は約1,500件/日で推移

※1 大型機：L2400、Presto 中型機：G1200 小型機：G600 II

※2 厚生労働省 新型コロナウイルス感染症について オープンデータより

2020年度上期業績概況

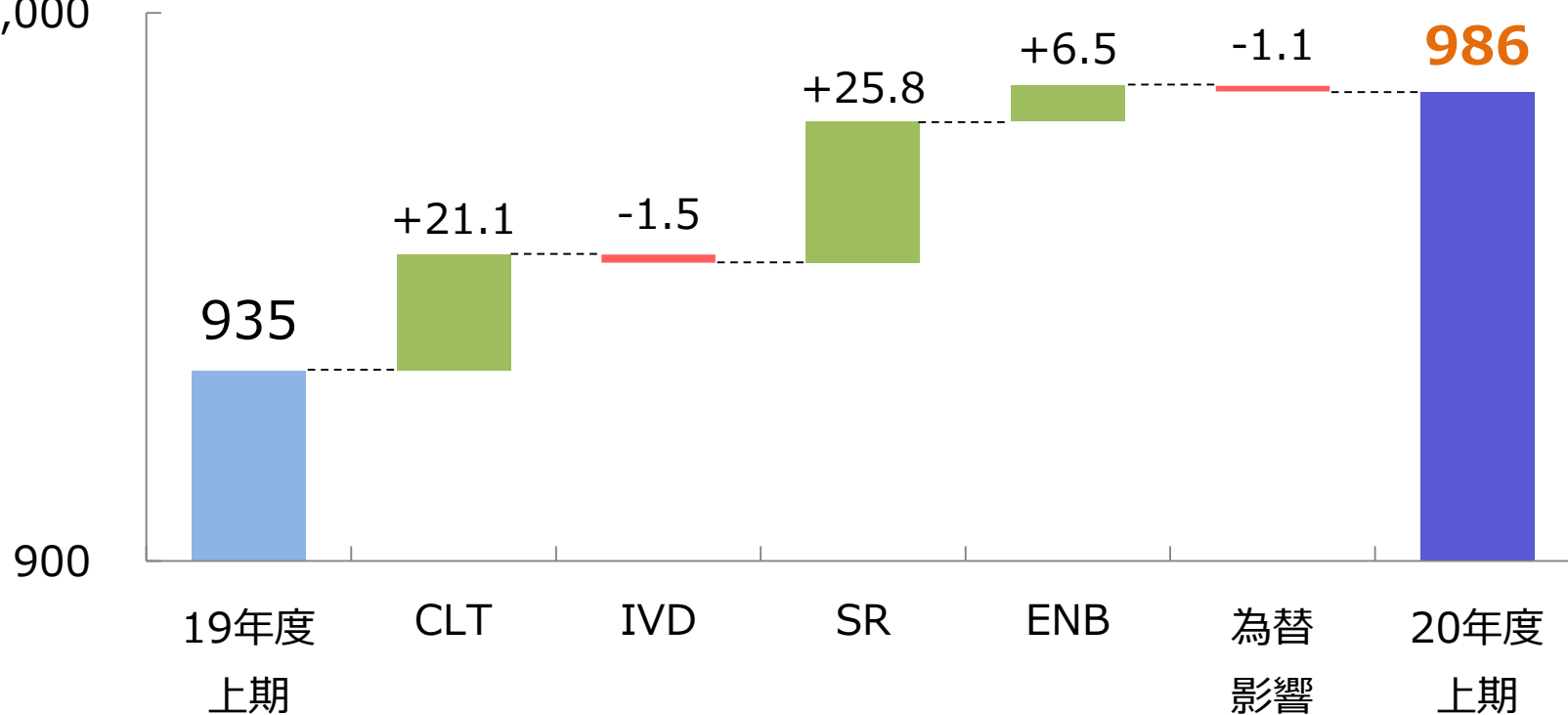
連結売上高 推移



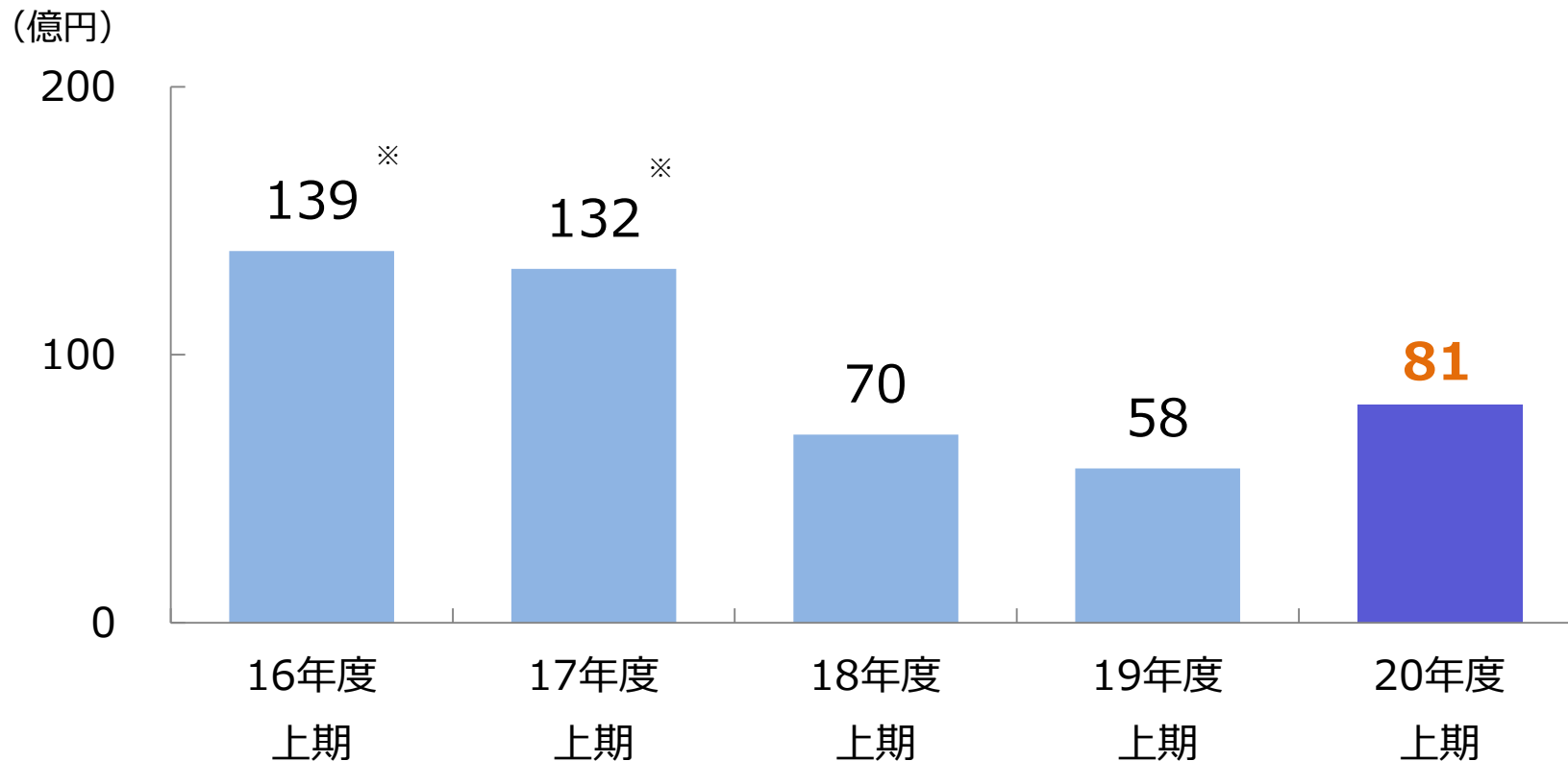
※ 海外CLTを除く

連結売上高 対前年同期比較

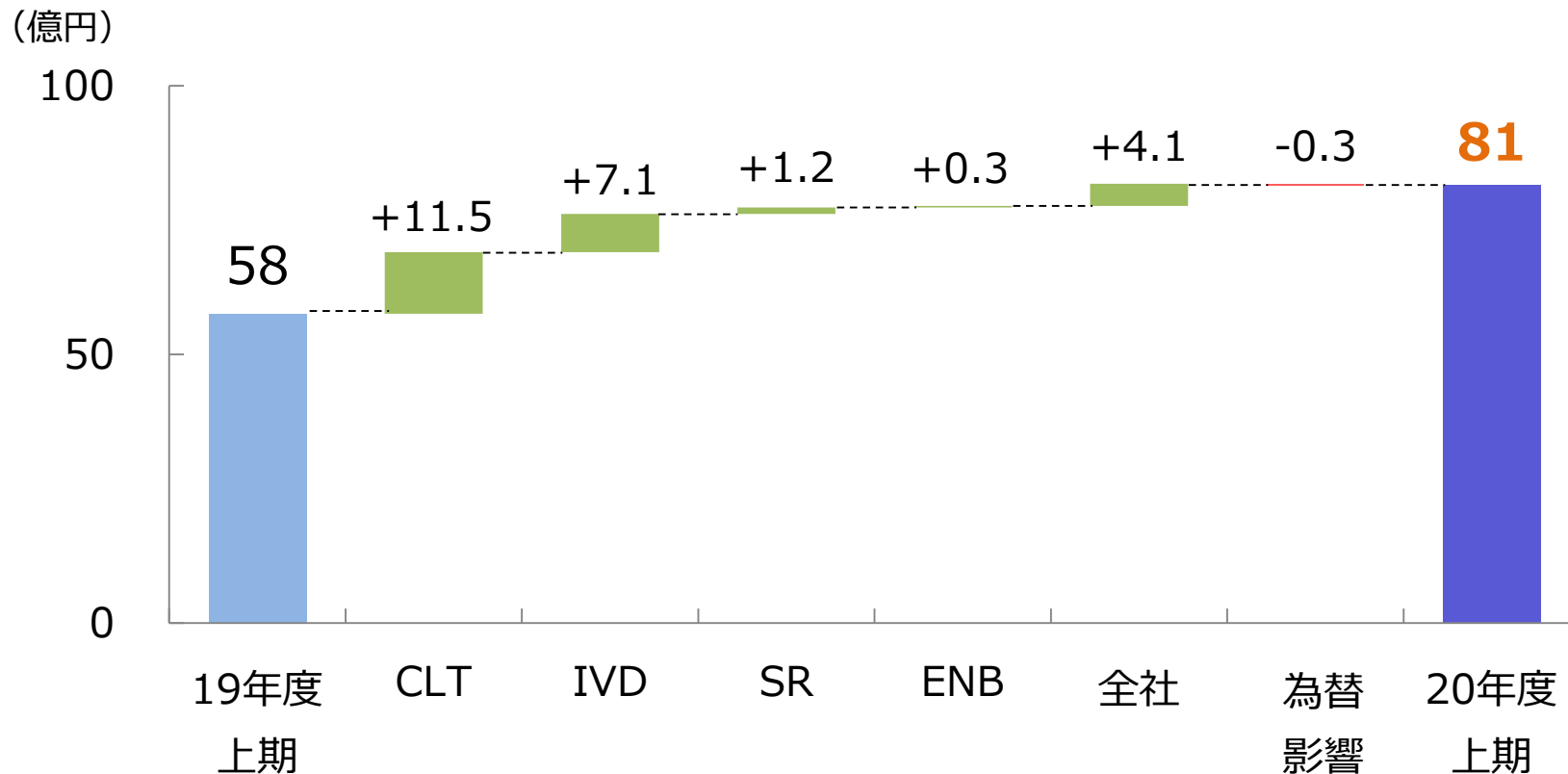
(億円)
1,000



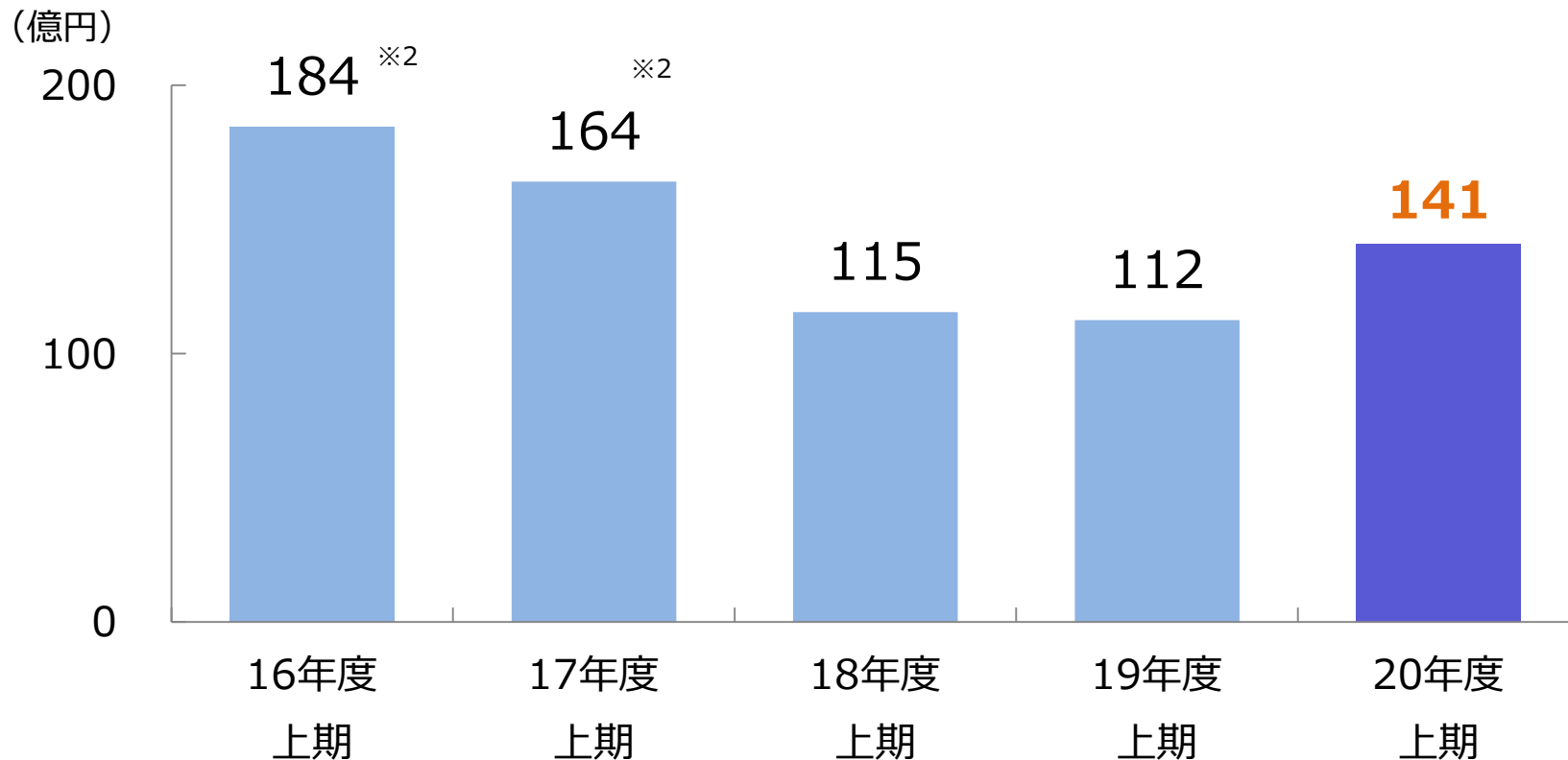
連結営業利益 推移



連結營業利益 対前年同期比較



連結EBITDA^{※1}推移

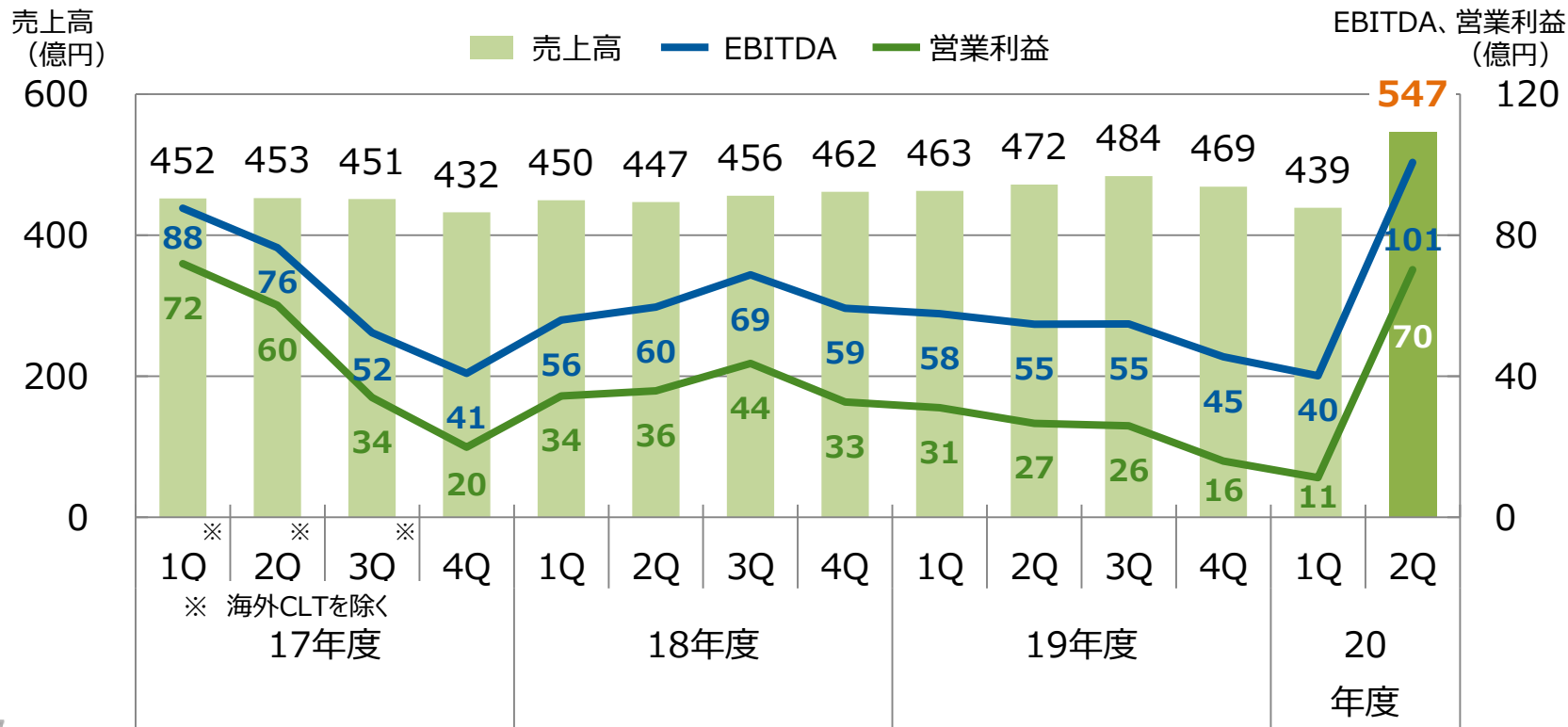


※1 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費

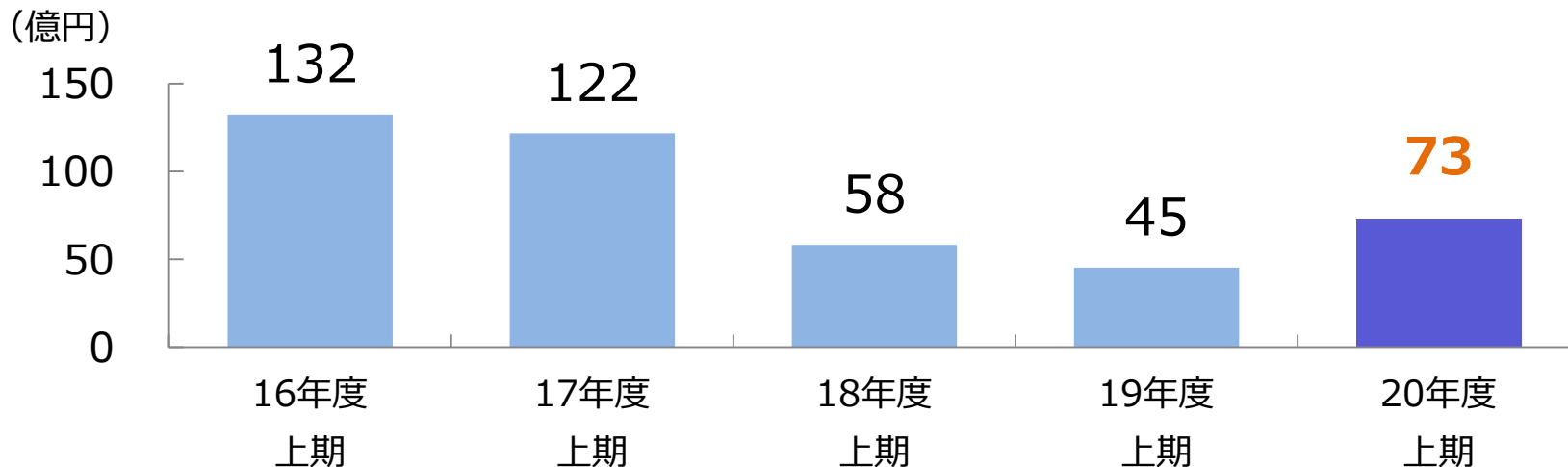
※2 海外CLTを除く

四半期毎の業績推移

過去最高の四半期売上高



連結経常利益 推移



主要要因

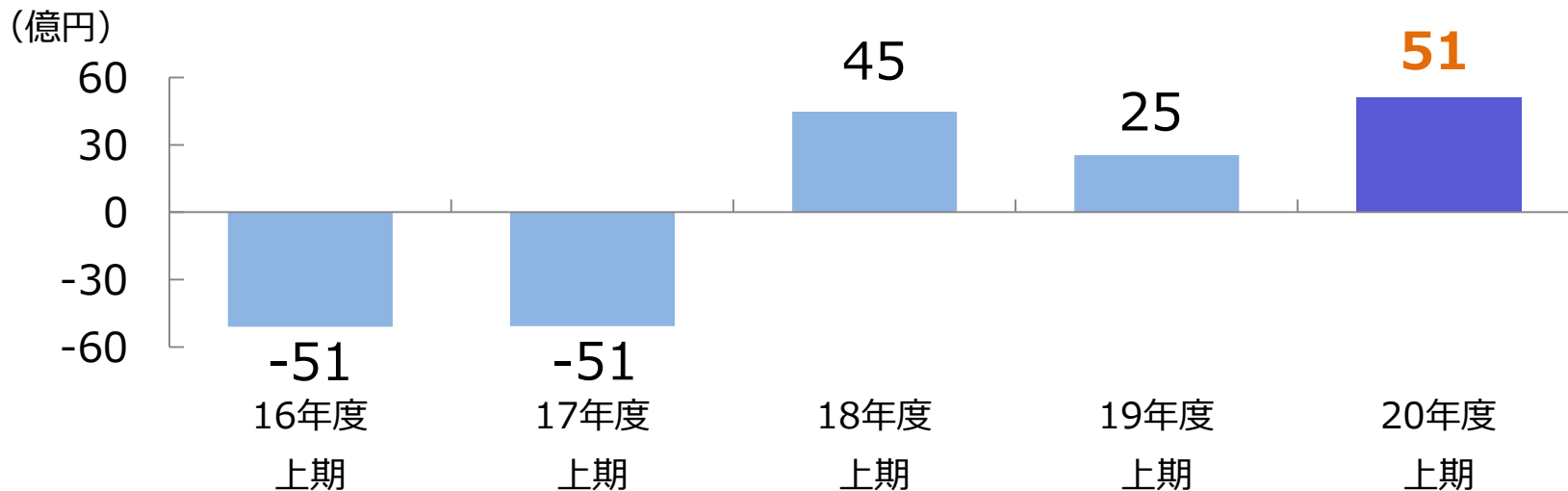
【2019年度上期】

- 持分法による投資損失 ▲13億円
 - ✓ BMGL ▲12億円
 - ✓ 平安保険グループとのJV ▲1億円

【2020年度上期】

- 持分法による投資損失 ▲10億円
 - ✓ BMGL ▲7億円
 - ✓ 平安保険グループとのJV ▲3億円

連結当期純損益 推移



主要要因

【2019年度上期】

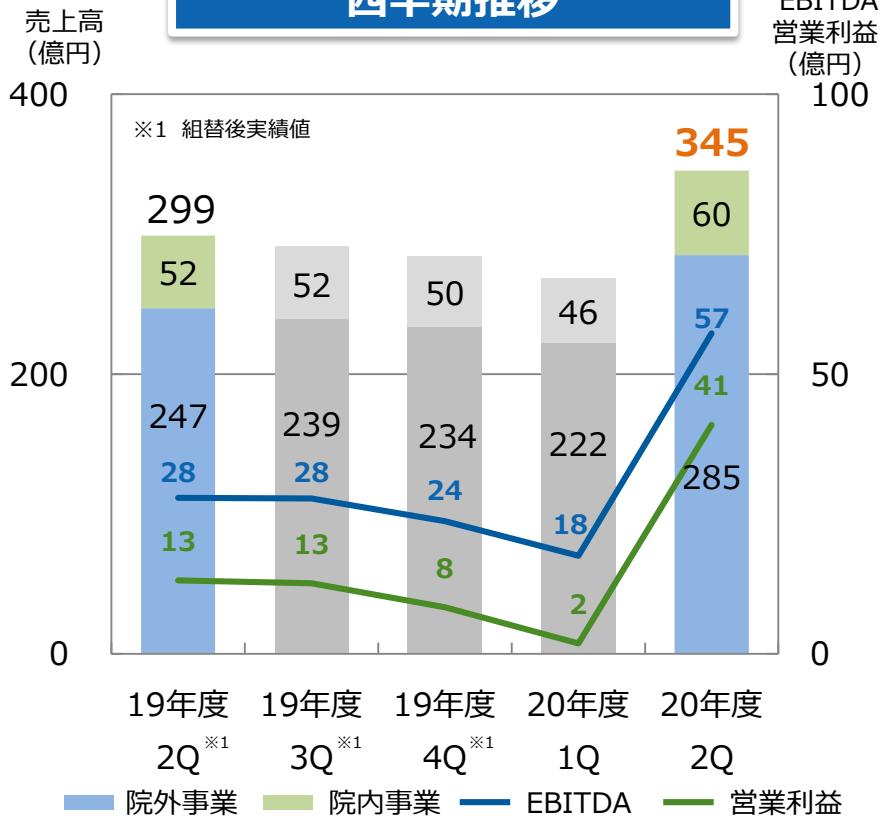
- (特記事項無し)

【2020年度上期】

- 事業構造改善費用 ▲8億円
- IVDインド子会社清算 ▲3億円

CLT事業

四半期推移



対前年同期比

(億円)

	19年度 上期	20年度 上期	対前年同期比 増減	
売上高	593	614	+21.1	+3.6%
院内	102	107	+4.7	+4.6%
院外	491	507	+16.4	+3.3%
EBITDA	60 10.1%	75 12.2%	+14.8	+24.7%
営業利益	31 5.3%	43 7.0%	+11.5	+36.6%

売上高

- テスト数：-4.6%
- 患者の受診抑制等による検査受託数の減少
- 新型コロナウイルスPCR検査の増加
- 空港検疫所における包括的検査サポート
- 遺伝子関連検査の増加

営業利益

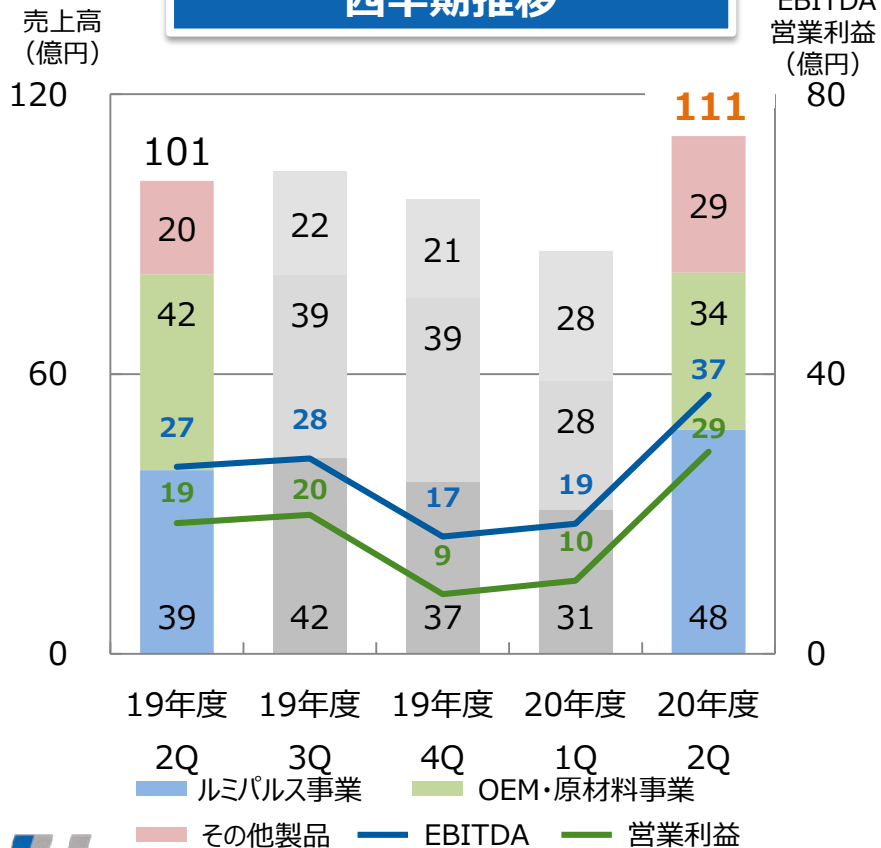
- 価格影響は想定の範囲内で推移
- 減価償却費の増加 (▲4億円)

※1 今年度よりSPSサービス事業をSR事業へ承継したことに伴い過去実績は遡及して組替後実績値を掲載（2019年12月19日付リリース参照）

※2 SPS（サニタリー・パッケージ・システム）サービス：白衣等ユニフォームのリース、メンテナンス、利用者個人別の管理を医療機関に提供するサービス

IVD事業

四半期推移



対前年同期比

(億円)

	19年度 上期	20年度 上期	対前年同期比 増減	
売上高	200	197	-2.6	-1.3%
ルミパルス	79	79	+0.0	+0.1%
国内	70	70	-0.1	-0.2%
海外	9	9	+0.2	+2.0%
OEM・原材料	80	61	-18.3	-22.9%
その他	41	57	+15.6	+37.6%
EBITDA	49	56	+7.0	+14.4%
営業利益	33	39	+6.8	+21.0%
ルミパルス 内販売上高	12	19	+6.8	+58.3%

売上高

- 新型コロナウイルス関連検査試薬による増収 (エスプラインSARS-CoV-2、ルミパルスSARS-CoV-2 Ag)
- 検査需要の減少に伴う減収 (ルミパルス、OEM・原材料)

営業利益

- 新型コロナウイルス関連検査試薬による増益
- 内販拡大による増益

インド子会社の清算を決定 (特別損失約3.2億円)

SR事業

四半期推移

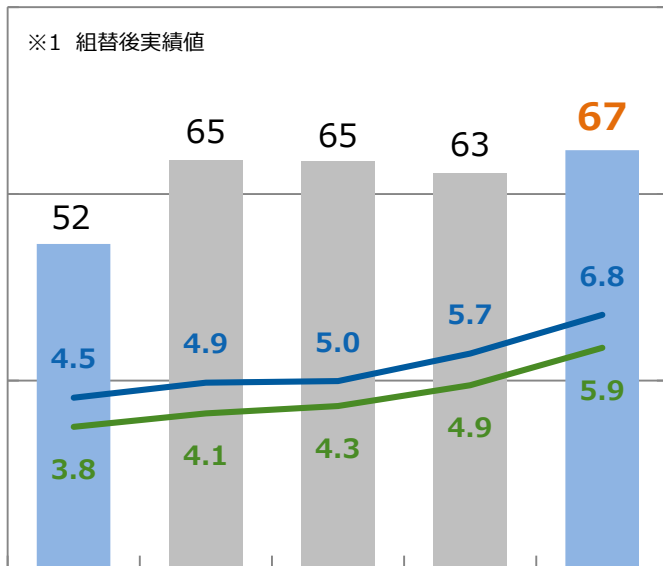
売上高
(億円)

90

60

30

0



19年度 19年度 19年度 20年度 20年度

2Q^{※1} 3Q^{※1} 4Q^{※1} 1Q 2Q

売上高 EBITDA 営業利益

EBITDA
営業利益
(億円)
15

10

5

0

対前年同期比

(億円)

	19年度 上期	20年度 上期	対前年同期比 増減	
売上高	105	130	+25.8	+24.7%
EBITDA	11.0	12.5	+1.4	+12.9%
営業利益	9.6	10.7	+1.2	+12.5%

売上高

- 19年度3Qから開始した大口顧客への医材預託品販売が寄与

営業利益

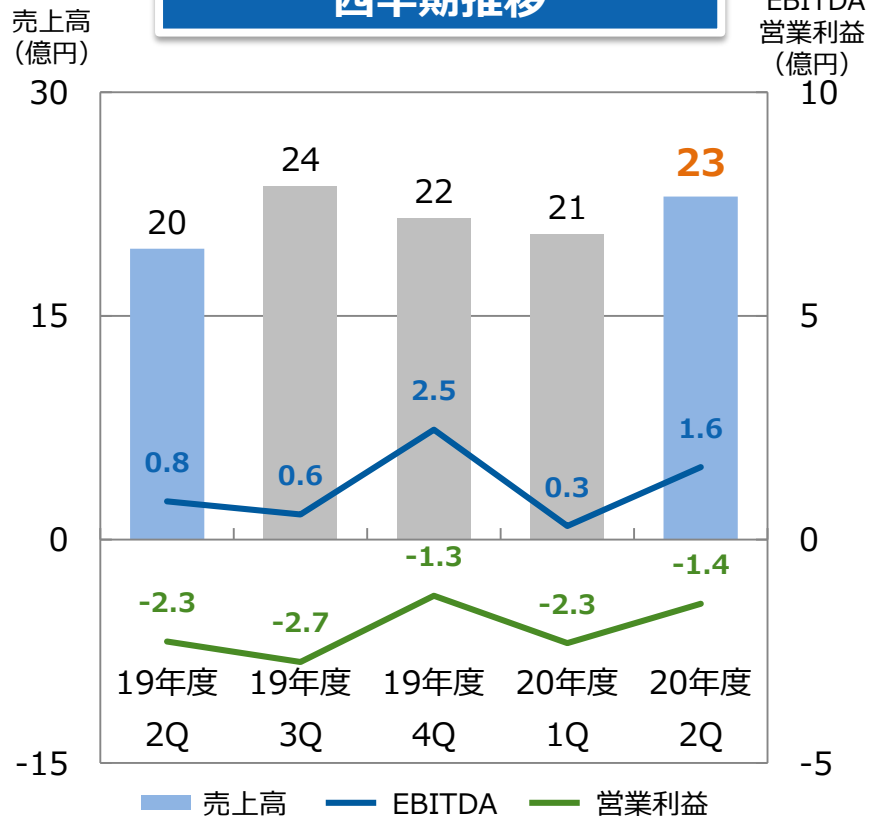
- 院内滅菌における業務量の減少による労務費の低減
- 医材預託品販売からの利益貢献は限定的

※1 今年度よりSPSサービス事業をCLT事業から承継したことに伴い過去実績は遡及して組替後実績値を掲載（2019年12月19日付リリース参照）

※2 SPS（サニタリー・パッケージ・システム）サービス：白衣等ユニフォームのリース、メンテナンス、利用者個人別の管理を医療機関に提供するサービス

ENB事業

四半期推移



対前年同期比

(億円)

	19年度 上期	20年度 上期	対前年同期比 増減
売上高	37	44	+6.5 +17.4%
EBITDA	1.7 4.5%	1.9 4.4%	+0.3 +15.6%
営業利益	-4.1 -11.0%	-3.8 -8.6%	+0.3 -

売上高

- 日本食品エコロジー研究所の売上が寄与 (+4.4億円)
- 在宅・福祉用具事業の伸長 (+1.5億円)

営業利益

- 事業立ち上げに伴う先行費用が継続

連結業績（対前年同期比）

（億円）

	19年度 上期	20年度 上期	対前年同期比 増減	
売上高	935	986	+50.9	+5.4%
CLT	593	614	+21.1	+3.6%
IVD	200	197	-2.6	-1.3%
SR	105	130	+25.8	+24.7%
ENB	37	44	+6.5	+17.4%
営業利益 ※1	58 6.2%	81 8.3%	+23.9	+41.5%
CLT	31 5.3%	43 7.0%	+11.5	+36.6%
IVD	33 16.3%	39 19.9%	+6.8	+21.0%
SR	10 9.1%	11 8.2%	+1.2	+12.5%
ENB	-4 -11.0%	-4 -8.6%	+0.3	-
経常利益	45 4.8%	73 7.4%	+28.2	+62.2%
親会社株主に帰属する 当期純損益	25 2.7%	51 5.2%	+25.6	+100.5%
EBITDA ※2	112 12.0%	141 14.3%	+28.3	+25.2%

※1 全社費用およびセグメント間取引消去を含む（19年度上期：▲11.7億円、20年度上期：▲7.6億円）

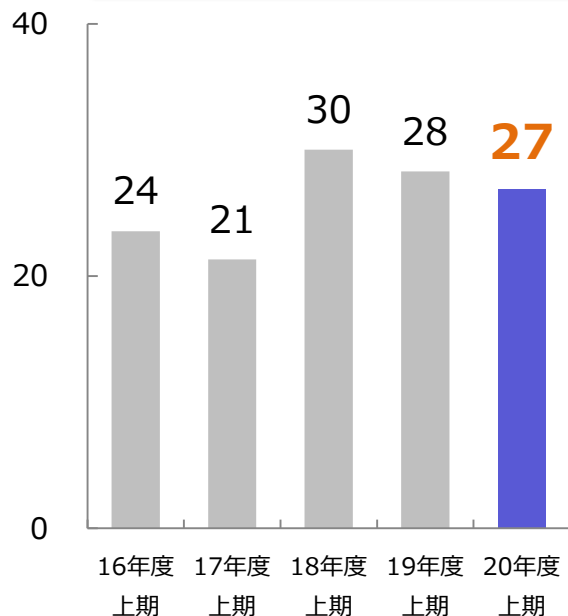
※2 EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却費

※3 各項目の右肩数字は、各売上に対する利益率

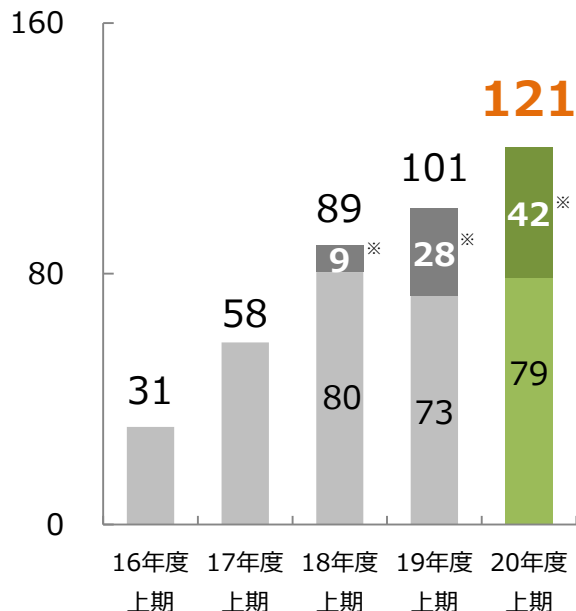
研究開発費、設備投資額、減価償却費 (海外CLTを除く)

(億円)

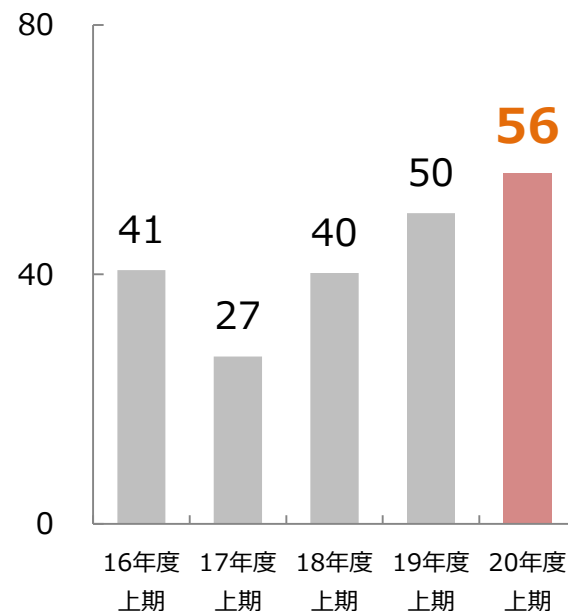
研究開発費



設備投資額



減価償却費



※ 新セントラルラボ関連投資

連結キャッシュフロー

- 当期利益の増加に伴い営業CFは前年同期比49億円増加
- 営業CFの増加に伴いフリーキャッシュフローは48億円改善

(億円)

	19年度上期	20年度上期
税金等調整前当期利益	40	62
減価償却費	50	56
売上債権の増減額	10	-63
仕入債務の増減額	-11	30
その他	0	-44
小計	89	41
法人税等の支払額	-40	58
その他	-1	-1
営業活動によるCF	49	98
固定資産の取得(有形、無形)	-82	-103
その他	-44	-24
投資活動によるCF	-126	-127
FCF	-77	-29

	19年度上期	20年度上期
長期借入金の返済	-45	-21
短期借入金の純増減	-	110
配当金の支払	-37	-37
その他	-6	-8
財務活動によるCF	-88	44
現金同等物期末残高	176	380

2020年度業績予想

2020年度通期業績予想について

	通期業績予想 (9月18日公表)	修正後通期業績予想	19年度実績
売上高	2,000~2,200	2,000~2,200	1,887
営業利益	140~185	160~200	99
経常利益	未定	145~185	65
当期純損益	未定	100~130	-5
EBITDA	未定	285~325	213

- 中間配当は一株当たり50円
- 通期配当（予想）は引き続き未定とし、通期業績を踏まえ決定する

補足資料

H.U.グループの新型コロナウイルス検査における提供サービス・製品

目的	現時点における感染の有無			感染履歴
検査種別	核酸検査	抗原検査		抗体検査
	PCR検査 (検査受託)	高感度抗原検査 (ルミバルス SARS-CoV-2 Ag)	迅速抗原検査 (エスプライン SARS-CoV-2)	高感度抗体検査 (検査受託)
検査種別		 ルミバルスL2400 ルミバルスG1200		
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 最も感度が高い 検査可能な施設・機器に限られ、厳重な梱包での検体輸送が必要 	<ul style="list-style-type: none"> PCR検査に準ずる感度 自動化された検査機器、医療機関内で検査 	<ul style="list-style-type: none"> 検査機器を必要としない 患者の傍で検査 同一検体でインフルエンザ抗原の検査が可能 	<ul style="list-style-type: none"> 自動化された検査機器
主な用途	<ul style="list-style-type: none"> 有症患者の確定診断（退院時の陰性確認を含む） 無症状者に対する陰性確認（空港検疫、濃厚接触者） 		<ul style="list-style-type: none"> 有症患者の診断 陽性：確定診断 陰性：発症2日目から9日以内は確定診断 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの感染履歴の有無（疫学調査等）
検体種別	鼻咽頭拭い液、鼻腔拭い液 唾液	鼻咽頭拭い液、鼻腔拭い液 唾液	鼻咽頭拭い液、鼻腔拭い液 (唾液は開発中)	血液
検査時間	4時間	大型機：25分以内 ※ 中・小型機：30分以内	10~30分以内	30分以内
受託・製造拠点	主に八王子ラボ	相模原工場	宇部工場 (旭川工場 年内稼働予定)	主に八王子ラボ
提供開始時期	2/12:行政検査開始 3/6:保険収載	6/25:保険収載 ※ 6/22:販売開始（中・小型機用試薬） 11/2:販売開始（大型機用試薬）	5/13:販売開始 5/13:保険収載	6/1:検査受託開始

※ 大型機：L2400、Presto 中型機：G1200 小型機：G600 II

研究開発費、設備投資額、減価償却費

	19年度上期	20年度上期	対前年同期比 増減	
研究開発費	2,829	2,684	-145	-5.1%
CLT	159	190	+31	+19.1%
IVD	2,157	2,025	-132	-6.1%
SR	-	-	-	-
ENB	-	4	-	-
HUHD等	512	463	-48	-9.5%
設備投資額	10,092 ※	12,054 ※	+1,961	+19.4%
CLT	7,190	7,107	-83	-1.2%
IVD	1,095	2,107	+1,012	+92.4%
SR	694	468	-226	-32.5%
ENB	845	1,327	+482	+57.0%
HUHD等	267	1,042	+775	+290.4%
減価償却費	4,979	5,613	+633	+12.7%
CLT	2,731	3,167	+436	+16.0%
IVD	1,369	1,388	+19	+1.4%
SR	124	171	+46	+37.2%
ENB	466	519	+54	+11.5%
HUHD等	287	365	+78	+27.0%

(百万円)

※ 新セントラルラボ関連投資を含む（19年度上期：約28億円、20年度上期：約42億円）

従業員数

(人)

	20年 3月末		20年 9月末		20年3月末からの増減	
	従業員	臨時 雇用者	従業員	臨時 雇用者	従業員	臨時 雇用者
総従業員数	5,968	6,622	5,976	6,388	+8	-234
CLT	2,926	3,112	2,827	3,010	-99	- 102
IVD	1,129	118	1,188	125	+59	+ 7
SR	1,161	3,152	1,192	3,001	+31	- 151
ENB	393	188	420	195	+27	+ 7
HUHD等	359	52	349	57	-10	+ 5

【連絡先】

H.U.グループホールディングス株式会社

コーポレートコミュニケーション本部 IR/SR課 TEL : 03-5909-3337

将来見通しに関する注意事項：

資料中の業績見通し数値は、現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣による判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づき作成されたものです。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら業績見通しとは異なる結果となり得る事をご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢の悪化、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、新製品上市の遅延、競合会社の製品戦略による圧力、当社既存製品の販売力の低下、販売中止、等がありますが、これらに限定されるものではありません。